

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	インドネシア人向けのひらがな・カタカナ教材の開発
Author(s)	アイ スミラー セティアワティ,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 15期 : 23 - 35
Issue Date	2001-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038901">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038901</a>
Right	
Relation	



# インドネシア人向けのひらがな・カタカナ 教材の開発

アイ・スミラー・セティアワティ

## 1. 始めに

インドネシアでは日本語が英語について人気のある外国語となっている。言語学部のある高校及び大学で学習されている。最近では民間の日本語コースも数多く現れてきていて、日本語を勉強しているインドネシア人は年々増えてきている。

日本語はひらがな、カタカナ、漢字、という3種類の文字を使用する。日本語を勉強するなら、当然この3種の文字も勉強しなければならない。しかし、いつもローマ字を使っているインドネシア人にとっては、ひらがな、カタカナ、漢字が非常に難しく覚えにくいものである。そのため、ローマ字で表記された教科書の方が便利だと言う人もいる。そう考えることもできるが、それより難点の方が多いと思う。日本語はローマ字書きにすると、語や文が長くなって読みとりやすく、学習の効率を低める恐れがある。

現在インドネシア人用のひらがな・カタカナ教材はあまりなく、効率的な学習が困難となっている。よく見られるのは英語あるいは日本語による説明があるものである。インドネシア語による説明がないとインドネシア人には理解しにくく、勉強する時間が長くなってしまい、効率的ではないと思う。

以上の考えにもとづき、日本語についてほとんど知識をもっていないインドネシア人のためにひらがな・カタカナを興味深くかつ効率的に導入する教材を開発したいと考えた。

## 2. 現存するひらがな・カタカナ教材の長所及び短所

現在、市販されているひらがな・カタカナ教材5種類を分析した。以下それぞれの長所及び短所を述べる。

### a. 「Pelajaran Tentang Suku Kata Bahasa Jepang—日本語かな入門インドネシア語版」

長所：

- \* その課で練習するかながローマ字表記と共に示してある。
- \* その課で提出される字で表記出来る単語が紹介されており、その全てに絵が付いている。

\* インドネシア語訳が付けてある。

\* テープがある。

短所：

\* ひらがな及びカタカナの勉強の流れに問題がある。ひらがなでは、まずその課で習われる文字を紹介する。そして、その課で勉強させるひらがなを含む言葉を紹介し、正しい書き順でひらがなを書かせる。最後は練習である。カタカナでは、カタカナの書き順及び濁音・拗音を全部1課で勉強させる。そして練習である。

b. 「総合表記練習—楽しみながら練習するローマ字・カタカナ・ひらがな・漢字」

長所：

\* 中に絵が付いているため、実物及び行動を思い浮かべることができる。

\* ゲーム形式の練習があり、楽しみながら勉強が出来る。

\* 学習したひらがな・カタカナを使った言葉や文章が練習問題として組み込まれているため、この本はすでにある程度日本語を知っている学習者には適当である。

短所：

\* 表紙に何も絵が書いていない。

教科書の表紙には絵が必要だと思う。何故かと言うと読者あるいは学習者の興味を引く為である。読者はある本を読む前に始めはその本のカバーを見て、面白そうだったら読もうとする気持ちになるのではないだろうか。

\* ひらがな・カタカナの書き順が無い。

\* 50音の並べ方に問題がある。

本書の50音の並べ方はひらがな・カタカナを勉強し始めたばかりの学習者をとまどわせる可能性があると思う。詳しくは、以下の50音の並べ方を見ながら述べる。

問題点

1. 「あ」行の後に「ら」行が続くように見える。

2. 「か」行の後に「や」行が続くように見える。

3. 「ま」行の次に「ら」行が書いてある。普通は「ま」行の後は「や」行が(あかさたなはまやらわん)来るのではないだろうか。

ア	イ	ウ	エ	オ	ラ	リ	ル	レ	ロ		
あ	い	う	え	お	ら	り	る	れ	ろ		
カ	キ	ク	ケ	コ	ヤ	ユ	ヨ	ワ	ヲ	ン	
か	き	く	け	こ	や	ゆ	よ	わ	を	ん	
サ	シ	ス	セ	ソ	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ		
さ	し	す	せ	そ	が	ぎ	ぐ	げ	ご		
タ	チ	ツ	テ	ト	ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ		
た	ち	つ	て	と	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ		
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ダ	ヂ	ヅ	デ	ド		
な	に	ぬ	ね	の	だ	ぢ	づ	で	ど		
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	バ	ビ	ブ	ベ	ボ		
は	ひ	ふ	へ	ほ	ば	び	ぶ	べ	ぼ		
マ	ミ	ム	メ	モ	パ	ピ	プ	ペ	ポ		
ま	み	む	め	も	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ		

c. 「KANA CAN BE EASY—絵で覚えるひらがな・カタカナ」

長所：

- \* カバーに絵が付いていて、興味を引く。
- \* 全ての文字に絵が付いていて、その文字から絵を、絵から音を連想する。
- \* ひらがな・カタカナの書き順が付いている。

短所

- \* 練習がない。
- \* 英語による説明があり、英語が分からないと全く使う事が出来ない。

d. Hiragana in 48 Minutes

長所：

- \* 全ての文字に絵が付いていて、その文字及び音を連想する。
- \* 全ての文字がカードで出来ていて、ゲームをしながら楽しく勉強出来る。

\*一つ一つがカードになっているので、一人で練習出来る。

短所：

\*文字の書き順が付いていない。

\*練習問題が付いてない。

\*英語による説明があり、英語が分からないと全く使う事が出来ない。

e. 「ヤングのための日本語かなワークブック—JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE 1—Kana Workbook」

長所：

\*書き順が付いている。

\*ゲーム形式の練習が多く、楽しみながら勉強が出来る。また記憶に残り易い。

短所：

\*英語による説明があり、英語が分からないと全く使う事が出来ない。

以上5種類の教材の長所及び短所を検討し、インドネシア人用にひらがな・カタカナ教材を作成する場合の方針を次のように考えた。

ア. 冊子状の教材ならば、学習者の興味を引くように表紙に面白い絵を書く。

イ. 楽しみながらひらがな・カタカナを勉強する事が出来るように、ゲーム的な要素を加える。

ウ. 学習者の記憶に残り易いように、面白くて覚えやすいひらがな・カタカナ導入方法を使用する。

エ. インドネシア人に理解出来るようにインドネシア語を使う。

### 3. インドネシア人用ひらがな・カタカナ教材

#### 3 - 1. 英語を使用している連想法

今まで分析した参考書の中で、KANA CAN BE EASY (Ogawa, 1990)及び Hiragana in 48 Minutes (Quackenbush 他, 1983) は、いずれも「連想法」と呼ばれる非常にユニークな方法が用いられている。これは、イメージを媒介とする連想技法である。当該ひらがな・カタカナの読みに近似した発音を含む英語の単語、及びその単語を際立たせる短い説明を利用している。

まずその媒介として使われるイメージの例をあげよう。例えば、KANA CAN BE EASY

には、「ち」では応援団の絵で（図1）、Hiragana in 48 Minutes には、「ひ」では大きく笑っている人の顔の絵（図2）が媒介として利用される。

図1 絵で覚えるひらがな・カタカナ (Ogawa, 1990)



図2 フラッシュカードの例 (Quackenbush, 1983)



「ち」については“*Chi* is a *Cheerleader*.”と文章化し、「cheerleader」の「chee」の発音を強調しながら口頭練習させる。「ち」と似ている応援団員の形をイメージさせる。

「ひ」については“A huge smile. Some laughs like “hee-hee”. ひ for hee-hee.”という文を文字が埋め込まれた絵と共に口頭で与える。「hee」の発音を強調する。

以上のイメージによる連想技法及び言語的媒介による連想技法を用いて、インドネシア語

の単語を使って、同じような方法でひらがな・カタカナ教材を開発したいと考える。

### 3 - 2. インドネシア語を使う連想法

Quackenbush 他 ( 1 9 8 3 ) 及び Ogawa ( 1 9 9 0 ) のアイデアを参考に、すでにインドネシア語を使っている連想法 ( 甲斐切、不明 ) の一部分も借りて、インドネシア人向けのインドネシア語を使う連想法を案出した。それは、ひらがな・カタカナの読みに近似した発音を含むインドネシア語の単語を利用したということである。

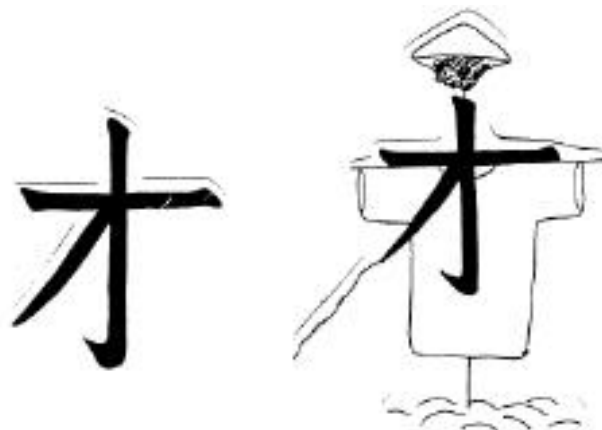
例えば、ひらがなでは「わ」については *wayang* ( インドネシアの伝統的な人形 ) という単語を使って、「wa」の発音を強調する。

カタカナでは、「オ」については *orang-orangan sawah* ( かかし ) という単語を使って、「o」の発音を強調する。( 図 3 及び図 4 を参照。 )

図 3 ひらがなの「わ」



図 4 カタカナの「オ」



### 3 - 3. インドネシア語を使った連想法を試す

この連想法がインドネシア人の学習者に役立つかどうかを知る為に簡単な実験を行った。対象は平成12年4月に来日したインドネシア人、4名であった。内2名はひらがな・カタカナの知識を持つが、残りの2名はひらがな・カタカナを学習した経験がない。

### 3 - 4. 方法

この4人のインドネシア人を2つのグループに分けた。各グループは2人組みで、ひらがな・カタカナの知識をもっている人及びもっていない人が1人ずつであった。

ひらがなの授業及びカタカナの授業をそれぞれ1時間ずつ行った。

1回目はひらがなの授業であった。Aグループには絵を使わず、1時間でひらがなの読み方を全部導入して覚えさせた。導入終了後ひらがなの読み方のテスト1を行った。数日後ひらがなの読み方のテスト2を行った。

Bグループにも同じような順序で実施したが、連想法を用いた絵を使用した。

2回目はひらがなの授業と同様にカタカナの授業を行った。ただし、今回はグループを逆にして、Aグループに絵を用い、Bグループには使わなかった。

図5 ひらがなの導入に関する実験の流れ

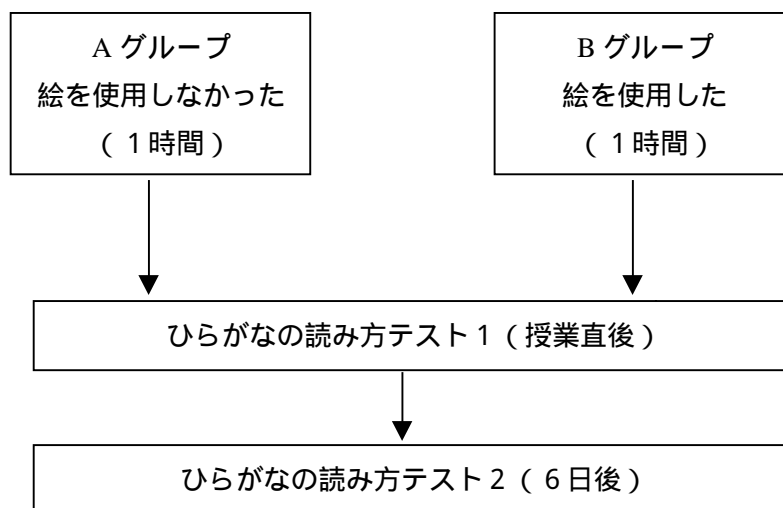




表1 ひらがなの読み方テスト問題の例

### TEST HIRAGANA

A. Tulislah huruf hiragana di bawah ini ke dalam huruf Latin yang tepat! (次のひらがなをローマ字で書きなさい。)

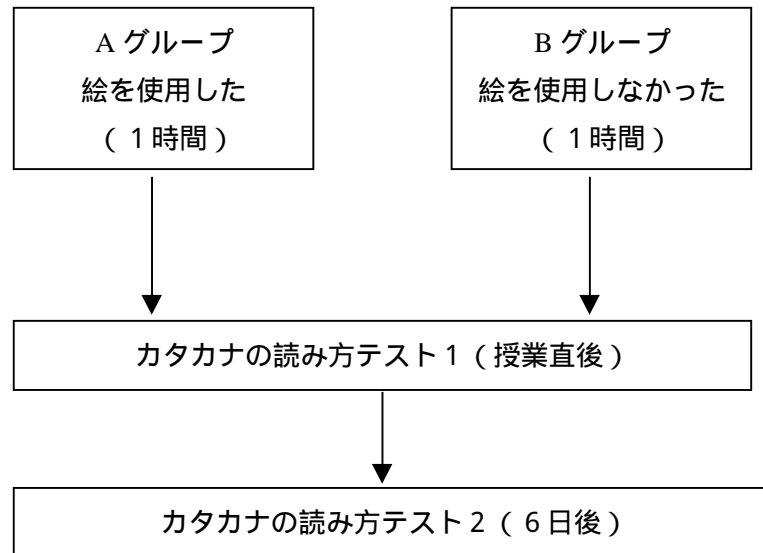
う = ..... く = .....  
ろ = ..... へ = .....  
す = ..... ち = .....  
ろ = ..... む = .....  
か = ..... さ = .....  
お = ..... ほ = .....  
や = ..... り = .....  
ね = ..... の = .....  
は = ..... な = .....  
し = ..... ひ = .....

B. Pilihlah huruf hiragana yang tepat! (左のローマ字に適切なひらがなを一つ選びなさい。)

E	=	う	え	ら
KI	=	さ	き	も
A	=	め	お	あ
KE	=	け	は	ほ
TA	=	な	に	た
MO	=	て	し	も
O	=	む	お	す
TSU	=	ち	つ	ら
ME	=	め	ね	ぬ
YU	=	よ	ゆ	や

Nama : .....

図 6 カタカナの導入に関する実験の流れ



### TEST KATAKANA

A. Tulislah huruf katakana di bawah ini ke dalam huruf Latin yang tepat! ( 次のカタカナをローマ字で書きなさい。)

ト = .....	マ = .....
カ = .....	ユ = .....
ク = .....	イ = .....
ン = .....	フ = .....
ロ = .....	オ = .....
ア = .....	モ = .....
セ = .....	ル = .....
ラ = .....	ス = .....
ネ = .....	コ = .....
ヲ = .....	ミ = .....

B. Pilihlah huruf katakana yang tepat! (左のローマ字に適切なカタカナを一つ選びなさい。)

MA	=	ア	マ	ム
WA	=	フ	ワ	ク
TSU	=	ツ	シ	ソ
U	=	ウ	ラ	ヲ
NI	=	ニ	エ	ユ
HO	=	オ	ナ	ホ
NO	=	ン	ノ	ソ
TA	=	タ	ク	ワ
KE	=	チ	ケ	テ
HI	=	イ	ヒ	ト

Nama : .....

### 3 - 5. 実験結果

#### 3 - 5.1 結果予想

この実験では絵を使って導入した場合のほうがひらがな及びカタカナの読み方テスト1及び2の成績が優るはずであると予想した。何故かと言えば、絵を介した連想法を使えば文字を覚えやすく、記憶に残りやすいと思ったからである。

#### 3 - 5.2. ひらがなの授業の成績

ひらがなの授業ではAグループには絵を使わず、Bグループには絵を使った。授業直後、ひらがなの読み方テスト1を行った。成績は予想通り、BグループがAグループより優っていた。

6日後、ひらがなの読み方テスト2を行った。成績は予想に反し、AグループがBグループより優っていた。

#### 3 - 5.3. カタカナの授業の成績

この授業はひらがなの授業と同様に行った。ただし、今回はグループを逆にして、Aグループに絵を使い、Bグループには使わなかった。カタカナの読み方テスト1の成績は予

想通り、A グループが B グループより優っていたが、カタカナの読み方テスト 2 の成績は、B グループが優っていた。

この実験では授業直後のひらがな及びカタカナの読み方テストは、絵を使用したグループが予想通り優っていたが、2 回目のテストは予想に反し、成績が逆になるという結果に終わった。

表 3 ひらがな及びカタカナの読み方テストの成績

名前	ひらがなの読み方テスト 1 (30 問)	ひらがなの読み方テスト 2 (30 問)	カタカナの読み方テスト 1 (30 問)	カタカナの読み方テスト 2 (30 問)	日本語歴
A	29	30	<i>30</i>	<i>30</i>	ある
B	12	22	<i>22</i>	<i>9</i>	なし
C	<i>30</i>	<i>30</i>	-	-	ある
D	<i>21</i>	<i>14</i>	19	16	なし

(注) 斜体数字：絵を使用

### 3 - 6.インタビュー

この実験が何故このような結果となったのかを知る為に、協力してくれた 4 人の学習者を対象にして 1 人ずつインタビューを行った。それぞれのインタビューから明らかになったことは次のとおりである。

#### \* A さんの感想

1. 時間的に見れば、この連想法は暗記のプロセスを早めることができる。
2. この連想法は効果的な方法である。

#### \* B さんの感想

1. この連想法はよい方法である。
2. 時間が足りなかった。1 時間で 4 6 の文字を覚えるのが大変だからである。
3. 単語に含まれたひらがな・カタカナの読み方に近似した発音は単語の巻頭にある場合及び単語の途中に出てくる場合があるから、学習者をとまどわせる。例えば、「る」には「Kanguru」(オーストラリアの特別な動物)、「さ」には「Pesawat」(飛行機)をイメージさせるようになっている。

\*Cさんの感想

1. この連想法はよい方法である。
2. ひらがな・カタカナの中には形がよく似ていて区別しにくい文字（例えば「ク」及び「ワ」）があるため、区別出来ない場合もある。この連想法のお陰でそういった似ている文字を区別出来るようになった。

\*Dさんの感想

1. 学習者の人数が少ないため、学習環境であるという気分にならない。人数が少ないと一生懸命に勉強しようとする競争がない。
2. 今はひらがな・カタカナを勉強する必要がまだないため、ひらがな・カタカナを覚える動機があまりなかった。
3. 時間が足りなかった。

以上の感想から今回実施した連想法問題点及び改良点は以下のようにまとめられる。

1. 1時間は46の文字を学ぶ為には足りなかった。
2. 学習者の人数が少な過ぎた。
3. ひらがな・カタカナを勉強しようとする動機付けは暗記力に影響を与える。
4. ひらがな・カタカナ発音が全部インドネシア語の単語の語頭に出てくるようにした方がよい。そのため全部が単語の巻頭に出てくるように統一した。「る」は「Ruby」（Hiragana in 48 Minutes、Quackenbush 他、1983）、「さ」は「Sapu」（箒）に書き直した。

今回の実験は対象が4名と非常に少なく、実験結果やインタビュー結果の信頼性は低い。しかし、ひらがな・カタカナを連想法によって学習する上で注意すべきことを知る助けになるであろう。

#### 4. 終わり

日本語の学習においてひらがな及びカタカナは基本である。確かに英語によるひらがな及びカタカナの紹介本はたくさんある。しかし、インドネシア語のものはほとんどみられない。そこでインドネシア人に適したひらがな・カタカナ教材を開発したいと考えた。そして新しいインドネシア人向けのひらがな・カタカナ教材を提案することが本研究の目的である。

今後、このイメージによる連想法をもっと深く研究し、インドネシアの高校生あるいはひらがな・カタカナを学習した経験がないバンドン教育大学言語学部日本語プログラムの新生を対象にして、もう一度実験を行おうと思っている。そして、インドネシア人に適

するひらがな・カタカナ教材の作成方針にもとづき、ひらがな・カタカナの教科書を作成したい。

日本語の学部のある高等学校や大学や民間の日本語のコースなど、つまり日本語を学習するインドネシア人に役に立つ教材を開発したいと希望している。

#### 分析に用いた教材

『Pelajaran tentang Suku Kata Bahasa Jepang—日本語かな入門インドネシア語版』、発行年不明、国際交流基金

『総合表記練習—楽しみながら練習するローマ字・カタカナ・ひらがな・漢字』、C & P 日本語教育・教材研究会編、1990年、専門教育出版

『KANA CAN BE EASY—絵で覚えるひらがな・カタカナ』、Kunihiko Ogawa、1996年、東京、The Japan Times

『Hiragana in 48 Minutes—Student Set』、Hiroko C. Quackenbush and Mieko Ohso、1975年、San Diego State University

『ヤングのため日本語1かなワークブック—JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE 1 Kana Workbook』、社団法人国際日本語普及協会、1998年、講談社

#### 参考文献

「たのしくおぼえるひらがな」、甲斐切清子JCC (Jakarta CommunicatioClub) での授業における配布資料)

「50分ひらがな導入法—『連想法』と『色つきカード』の比較」、カッケンブッシュ他『日本語教育69号』1989年